

## 上映会おすすめ作品

### 365日のシンプルライフ TAVARATAIVAS



Director & Script: Petri Luukkainen Producer: Anssi Perttala Photography: Jesse Jokinen  
 Editor: Altti Sjögren Music: Timo Leszy Sound: Kyösti Vantänen Production: Unifilm Oy/Helsinki, Finland © Unikino 2013

© Unikino 2013



#### ●イントロダクション●

ヘルシンキ在住・26歳のペトリは、彼女と別れたことをきっかけに、モノで溢れ返った自分の部屋にウンザリする。ここには自分の幸せがないと感じたペトリは、自分の持ちモノ全てをリセットする“実験”を決意する。

ルールは4つ。

- ① 自分の持ちモノ全てを倉庫に預ける
- ② 1日に1個だけ倉庫から持って来る
- ③ 1年間、続ける
- ④ 1年間、何も買わない

1日目は、空っぽの部屋から倉庫まで、全裸で雪のヘルシンキを駆け抜ける。こうして始まった365日の“実験”生活。毎日、倉庫からモノを1つ選ぶたびに、「自分にとって今、必要なモノは何か？」を考える。そんな中で、モノに反抗したくなったり、逆にモノが恋しくなったり、気持ちは日々変化していく。

「必要が満たされた時に、人はモノに何を求めるのか？」「モノを買わないと決めたのに、直すより買った方が安い。どうしたらいい？」「何のために、自分はたくさんのモノを持っていたのか？」といった無数の問いと葛藤が、ペトリを襲う。

優しい相談相手であるおばあちゃん、兄を心配して食料を差し入れてくれる弟、文句を言いながらもモノの出し入れや修理を手伝ってくれる友人たち、新しく出会ったアウトドア好きなガールフレンドなど、様々な人々との関わりの中で、「自分を幸せにする、人生で大切なものは何か？」の答えを、ペトリは見出していく。

### 365日のシンプルライフ

フィンランドからやってきた

#### 「人生で大切なもの」を見つけ出す 365日のモノがたり

フィンランド人の若者が、失恋をきっかけに、自分の持ちモノすべてをリセットして行なった365日の“実験”生活。監督・脚本・主演を務めたペトリ・ルーッカインンの実体験から生まれた「とにかくやってみよう！」のアイデアが、映画という形になった。

登場する家族や友人は全てホンモノ、ペトリを中心とするリアルな人間関係と日常生活に起こるドラマが、北欧ジャズシーンをリードするティモ・ラッシーのサクソに乗って、軽快に綴られていく。

80分 kinologue 監督・脚本・主演：ペトリ・ルーッカイン



## 上映会おすすめ作品

## リトル・ガール

ただ、女の子として生きたい。

フランス北部、エーヌ県に住む少女・サシャ。出生時、彼女に割り当てられた性別は“男性”だったが、2歳を過ぎた頃から自分は女の子であると訴えてきた。

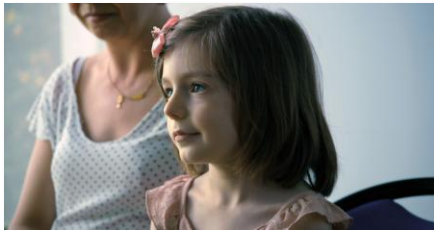
しかし、社会は彼女を他の子どもと同じように扱わない。学校では女の子としての登録が認められず、男子からも女子からも疎外され、バレエ教室では男の子の衣装を着せられる。

7歳になってもありのままに生きられず不自由なサシャ。そんな彼女を支える家族は、彼女の個性を受け入れさせるために奔走し、学校や周囲へ働きかけるのだが…

85分 サンリスフィルム 監督：セバスチャン・リフシツ



©AGAT FILMS &amp; CIE - ARTE France - Final Cut For real - 2020



## ●イントロダクション●

トランスジェンダーのアイデンティティは、肉体が成長する思春期ではなく幼少期で自覚されることについて取材を始めたリフシツ監督は、サシャの母親・カーリーヌに出会った。

長年、彼女は自分たちを救ってくれる人を探し続けて疲弊していたが、ある小児精神科医との出会いによって、それまでの不安や罪悪感から解放される。そして、他の同じ年代の子どもと同様にサシャが送るべき幸せな子供時代を過ごせるよう、女性として認めるように小学校へ働きかける。

まだ幼く自分の身を守る術を持たないサシャに対するカーリーヌと家族の献身、言葉少なに訴えるサシャ本人の真っ直ぐな瞳と強い意志が観る者の心を震わせる。

監督であるセバスチャン・リフシツは世界の周縁で生きる人々に光をあてた作品を撮り続け、カンヌで4回、ベルリンで4回にわたって正式出品を果たし、世界中の映画祭で高く評価されている。

本作『リトル・ガール』も2020年ベルリン国際映画祭で上映後、様々な映画賞を獲得し続けている。また、劇場の封鎖されたフランスでは、同年12月にTV局ARTEにて放送。視聴者数1,375,000人、その年のドキュメンタリーとしては最高視聴率（5.7%）を獲得。

オンラインでは28万回以上の再生数を記録し、大きな反響を呼んだ。ドキュメンタリストとして確かな地位を築いたリフシツ監督が洞察に満ちた繊細なカメラで、家族の喜びの瞬間、直面する多くの課題を捉えた、幼少期の“性別の揺らぎ”に対する認知と受容を喚起する貴重なドキュメンタリー。

## 上映会おすすめ作品

# シサム

生きろ。未来のためにー

今の時代に観るべき、壮大な歴史スペクタクル

江戸時代前期。

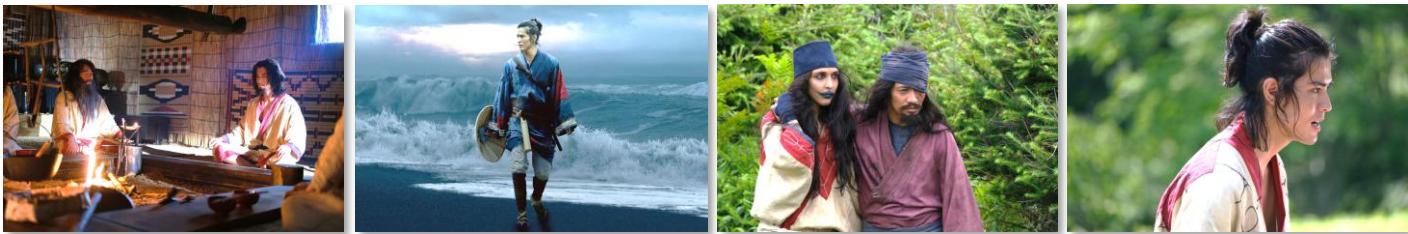
北海道の南西部にある松前藩はアイヌとの交易品を主な収入源としていた。松前藩藩士の息子、孝二郎（寛一郎）は兄、栄之助とともにアイヌとの交易で得た品を他藩に売る仕事をしていた。

ある夜、使用人の善助の不審な行動を見つけた栄之助は善助に殺されてしまう。兄の敵討ちを誓った孝二郎は善助を追って蝦夷地へと向かうー。

115分 ナカチカピクチャーズ 出演：寛一郎、和田正人、坂東龍汰  
監督：中尾浩之



©映画「シサム」製作委員会



### ●イントロダクション●

江戸時代前期、北の大地の荘厳な森では、アイヌの間で和人（シサム）への反発と蜂起の動きが高まっていた。

アイヌと和人との歴史を描いた人間ドラマである本作。＜蝦夷地＞と呼ばれた現在の北海道を領有した松前藩が、アイヌとの交易をおこなっていた史実が基になっている。本作は、町全体がイオル（アイヌの伝統的生活空間）という考えの下、アイヌと和人が共生してきたという認識をもつ北海道白糠町で多くの場々が撮影され、セット建設から撮影まで、町からの全面支援・協力のもと製作されている。

主演は『菊とギロチン』（18）でキネマ旬報ベスト・テン新人俳優賞に輝き、阪本順治監督の『せかいのおきく』（23）や北野武監督の『首』（23）などの話題作に次々と出演し、著名な映画監督からの信頼も厚い寛一郎。蝦夷地に赴き、異なる文化や風習に触れることで、アイヌの持つ精神や理念に共鳴してゆく武家の若者を演じている。

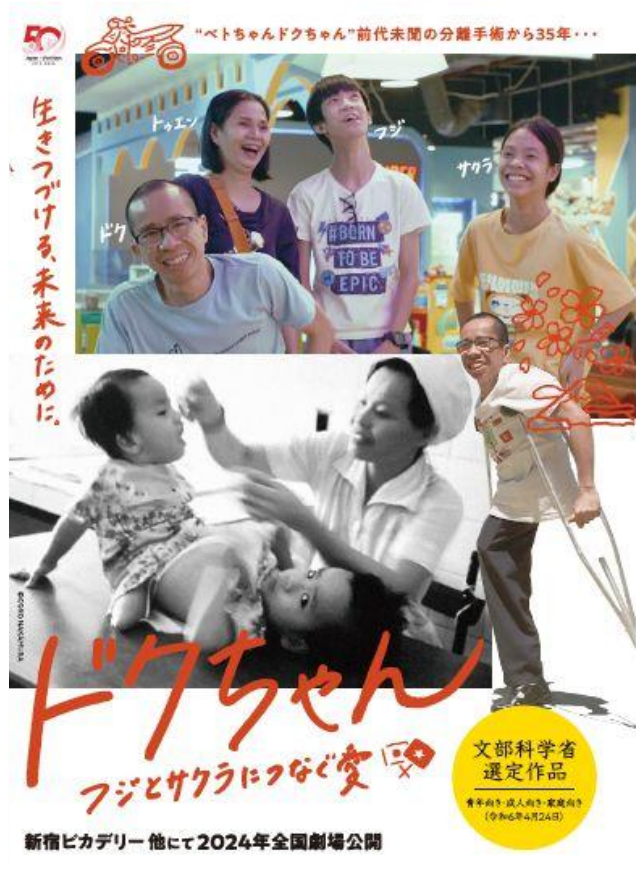
脚本を手掛けたのは、阿部寛主演の『結婚できない男』（関西テレビ）や朝ドラ『梅ちゃん先生』（NHK）など、大ヒットドラマを手掛けてきた尾崎将也。本作では日本語とアイヌ語の台詞を混在させながら、現代社会における＜不寛容＞が暴力へと繋がってゆくプロセスを丁寧に紡ぎ出している。監督は『タイムスクープハンター』（NHK）や小説『ブルバスター』がアニメ化されるなど、多岐にわたる分野で活躍している中尾浩之。映画監督作品は『劇場版 タイムスクープハンター-安土城最後の1日-』（13）以来約10年ぶりとなるが、北海道の大自然を活かしたダイナミズムな演出によって、作品に重厚なトーンを生み出している。

北海道の大自然をバックに、激動の歴史の渦に巻き込まれた武家の若者が異なる文化や風習に触れ、それらを理解することによって己の人生を見つめ直してゆく。過去の歴史を描いた作品でありながら、現代に通じる社会問題を訴求させ、今の時代に観るべき感動の一大叙事詩が誕生した。

## 上映会おすすめ作品

### 平和教育プログラム用上映料金特別価格

通常価格：150,000円(税別) →特別価格：50,000円(BD/DVD)  
(100人まで)100名以上は応相談。



(C)Kingyo Films Pte. Ltd.

# ドクちゃん

## -フジとサクラに繋がぐ愛-

日越外交関係樹立50周年と、  
分離手術から35周年を記念するドキュメンタリー作品

80年代、ベトナムの「ベトちゃんドクちゃん」としてメディアで多く取り上げられたグエン・ドクはいま夫、そして父となりホーチミンで暮らしている。

ベトナム戦争で使用された枯葉剤の影響を受け結合双生児として生まれた運命、今も後遺症と戦う宿命、そして平和のメッセンジャーという使命とともに逞しく生きる姿を捉えたドキュメンタリー。

73分 KINGYO FILMS 出演：グエン・ドクほか 監督：川畑耕平



### ●イントロダクション●

200今年43歳を迎えたドクは14歳の双子の兄妹フジとサクラを子に持つ父。

ドクは慢性的な健康不調を抱えながらも、片脚で乗る特別仕様の三輪バイクに乗り毎日を忙しく生きる一家の大黒柱だ。

子供たちに愛を惜みなく注ぎ、彼らの将来の成功を願う教育熱心な父でもある。

35年前に話題になった双子の兄ベトとの分離手術は日本から最大の支援を受け、ベトナムで行われた。

それから時を経て今、ドクは「教科書の人」、「過去の人」になりつつある。

しかし、彼は今も枯葉剤の傷跡を背負いながら毎日を生きている。

これまで多くのメディアから取材を受けてきたドク自身も、本映画の撮影では初めて自分の全てをさらけ出すと覚悟して挑んだ。

ドクの過去と生い立ちを、今のドクとともに振り返るこの映画が未来に語るものとは。